

愛知労働局長がベストプラクティス企業を訪問しました

愛知労働局では、令和5年11月17日、阿部充^{あべみつる}局長がニチレイロジグループの株式会社ニチレイ・ロジスティクス東海 名古屋みなと物流センターを訪問しました。

同グループは冷凍食品などを扱っている物流企業で、ニチレイのほかにも多くの食品関連企業の物流を担っており、全国に拠点を有しています。

同グループは、令和6年4月からのトラックドライバーの時間外労働の上限規制の適用に向けて取り組んで

います。同社の稲付^{いなつき}企画管理部長によると、同グループの次世代輸配送システムSULS（サルス）は、荷台部分の切り離しが可能なトレーラーを活用し、荷役作業を物流センター側で行うもので、ドライバーは荷役作業や荷待ち時間から解放され、大幅な労働時間の短縮が可能になるとのことです。

また、同グループでは平成29年からトラックバース予約システムを導入しております。それまでは到着順で荷降ろしをしていたため、早朝にトラックが集中し、長時間待機の原因になっていましたが、予約システムの導入後は平準化が進み、ある物流センターでは、導入前は2時間以上の荷待ちが7割以上であったところが、導入後は1時間以内が9割以上と大きな効果をあげられたとのこと。



物流センター内の見学もさせていただき、様々な設備について説明を受けました。小口貨物を保管するケース自動庫では、作業の省人化と迅速化を実現でき、パレット自動庫は、仮

置き貨物の省人化と省スペース化を実現できたとのこと。同センターの籠橋^{かごはし}所長は、

「我々のセンターでは、属人的な技能に頼るのではなく、省人化と誰でもできる化を目指して、働きやすい職場環境づくりを進めています。」と話しました。

最後に、阿部局長は『誰でもできる』という部分も含めて、これからの物流業界で大事なところがいくつも盛り込まれた職場だと感じた。今後も良い職場づくりに取り組んでいただきたい」と感想を述べました。